

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 24 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671400160
法人名	社会福祉法人 若穂会
事業所名	社会福祉法人 若穂会 グループホームあい
所在地	徳島県海部郡牟岐町川長字山戸45番地 (電話) 0884-72-3533

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 20 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤:7人、非常勤:1人、常勤換算:7.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造鋼板葺平屋建造り
	1 階建ての 1 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,400 円	その他の経費(月額)	電気器具使用料:4,500円、その他実費	
敷金	有( 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	270 円	おやつ	60 円
	または1日当たり		-	円

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	80 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	美海クリニック、徳島県立海部病院、ほり歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然豊かな環境の中にあり、医療機関や法人の施設が隣接している。建物は平屋で、共用空間を囲むように居室が配置され、職員の目が行き届きやすく安全な造りとなっている。職員の年齢層も幅広く(20代～60代)、それぞれの個性を活かしたケアが行われている。定期的にボランティアが来訪し、手芸作品を一緒に作り、利用者に喜ばれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である運営推進会議の議事録の確認印、金銭出納簿への家族の確認印については改善されている。しかし、地域の同業者との交流については改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は評価の意義や目的を理解し、全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は平成19年12月から平成20年10月までに5回行われ、2か月に1回の開催となっている。会議には利用者や家族、町職員、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所職員などが参加している。会議内容は、事業所の活動報告や参加者からの意見・要望等について討議され、事業所の運営やサービスの質の向上に活かす取り組みがなされている。会議録は保存され、確認印もある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、毎月の個別便りと不定期で「グループホームあいだより」を配布し、利用者の暮らしぶりや事業所の行事、職員の異動状況などを報告している。玄関には意見箱を設け、家族が要望等を伝えやすい工夫をしている。出された意見などはすぐに会議で検討してサービスの改善に取り組み、内容は記録に残して家族にも結果を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアが定期的に来訪し、手芸作品作りを行っている。また作品を町の文化祭に出展したり、併設施設の夏祭りに参加するなどして地域住民との交流を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、地域の中で利用者の暮らしを支えていくサービスの実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や共用空間の見やすい位置に掲げられている。管理者・職員は朝礼時に理念を唱和し、ミーティングでも確認しあっている。職員は利用者の笑顔を喜びとして、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わしたり、事業所からおやつを持って近隣を訪問するなどしている。また地域の文化祭にボランティアと作った手芸作品を出展したり、併設施設の行事に参加するなどして地域との交流を図っている。近隣の医療機関の待合室や町役場に「グループホームあいだより」を掲示し、事業所の理解が得られるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・全職員が評価の意義を理解し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年12月から平成20年10月までに5回行われ、2か月に1回の開催となっている。会議には利用者や家族、町職員、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所職員などが参加している。会議内容は、事業所の活動報告や参加者からの意見・要望等について討議され、事業所の運営やサービスの質の向上に活かす取り組みがなされている。会議録は保存され、確認印もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や職員は、町の担当者と連携し、情報交換や運営の相談などを行っている。月1回、町のケア会議にも参加するなど、連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月の個別便りと不定期で「グループホームあいだより」を配布し、利用者の暮らしぶりや事業所の行事、職員の異動状況などを報告している。また急ぎの時は電話連絡を行うなど個々に合わせた報告が行われている。家族の来訪時には金銭出納簿を確認してもらい、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置している意見箱や運営推進会議を通して家族の要望等を把握している。出された意見などはすぐに会議で検討してサービスの改善に取り組み、内容は記録に残して家族にも結果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった場合には、利用者の不安を和らげるよう声かけの工夫や十分な引継ぎを行い、馴染みの関係が早く築けるよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画のもと併設施設で行われる法人内の研修には、職員が交代で参加している。職員の希望にそった外部研修にも参加できるよう配慮している。報告書も保存され、職員の回覧印も押されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した時に情報交換を行うなどしている。しかし、地域の同業者と交流する機会は持たれていない。	○	地域の同業者と交流する機会を設け、サービスの向上に活かす取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には認知症対応型通所介護の利用を通して事業所に馴染んでもらうなどしている。入居後は使い慣れた家具を持ち込んでもらったり、家族や友人に来訪してもらえよう依頼するなど、自然に馴染んでもらえよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に洗濯や食事作りなどの家事を分担したり手芸や習字を楽しんだりしながら喜怒哀楽を分かち合い、共に支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から利用者の生活歴や習慣などを聞いたり、日常生活や会話の中から一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からそれぞれの意見を聞いたり、日常生活の会話や観察の中から要望を見出すなどし、必要な関係者と話し合い計画を作成している。計画書には本人・家族の確認印がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間終了と利用者の状態に変化が生じた場合には、利用者や家族、関係者間で話し合い、随時、現状にそった介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護事業を実施し、入居待ちの方へのサービスや馴染みの関係づくりに活かしている。また医療連携体制もっており、利用者や家族の安心に繋げている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。また隣接診療所の協力医の訪問診療があり、日常的な健康管理を行っている。また緊急時には、近隣の協力医療機関に受診できるよう関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に、重度化した場合や終末期に向けた方針についての同意書をいただいている。利用者の状態を家族・医師・職員間でよく話し合い、全員が方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーの保護に努め、食事や入浴の際には利用者を尊重した優しい声かけをするなどの支援を行っている。記録等の個人情報は規程にそって取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴は利用者一人ひとりのペースにあった支援を行っている。また家事の分担や行事への参加などは、生活歴や好み、習慣などを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員の見守りの中、テーブル拭きや盛り付け、配膳、後片付けなどを行っている。また職員と一緒にテーブルを囲み、楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中は、利用者の体調や希望に合わせていつでも入浴できる支援体制をとっている。入浴を嫌がる利用者にも無理強いせず、言葉かけや誘導のタイミングを変えるなどしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に洗濯や炊事、掃除などの役割を持ってもらい、本人の能力を活かした支援を行っている。また手芸作品づくりや散歩、外気浴などの楽しみ事や気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の希望、心身の状態などを考慮し、ドライブや散歩、外気浴をしながらのティータイム、近くの飲食店での外食等の外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけないケアの重要性を認識し、日中は見守りが行き届くような配慮が行われている。しかし、利用者の手が届かない位置に解錠のセンサーが設置されている。	○	日中は鍵をかけないケアの実施に取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する法人施設と合同で年に1回、避難訓練を実施している。また年に1回、消防署から訓練の指導を受け、防災の意識を高めている。緊急時の対応マニュアルも作成している。しかし地域の人々の協力を得られるような働きかけが行われていない。	○	災害時に備え、地域の人々の協力を得られるよう働きかけられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士にバランスのよい食事のアドバイスを受け、カルシウム入りのお茶で、栄養と水分確保を支援している。またお茶を各居室に配り、1日の必要量が確保しやすいよう工夫している。毎日の食事・水分摂取量の記録も残されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂、ホームのいたるところに利用者が活かした季節の生花が飾られている。廊下、食堂の壁面には、利用者と職員が作った手芸やちぎり絵、書道の作品が展示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には一人ひとり違った手作りの暖簾がかけられている。また、居室には利用者が居心地よく過ごせるよう家族の写真や利用者手作りの小物、生け花などを配置している。		